

効率よい搬出で生産性アップ



を振り返り「働いているうち、役場からの住宅の支援や、山主さんからの仕事の斡旋、地元の人から

はメンバーの中で「山を買おう」という動きが起きています。きっかけは「森林所有者から、ただで

野菜をいただくなど地域と繋がりができ、アルバイトのつもりが今では林業に、そして地域に定着することができた」と話します。彼らに対する地域の小さな関係の積み重ねが彼らを支えていく。そんな良いサイクルが生まれていたので。高齢化や過疎化が進む中山間地にあつて若い労働力の定着を成し得ているこの事例は、いくつかのヒントを含んでいます。

■新しい山林経営の形
今、広高林研グループで

もいから山を引き取ってほしい」という言葉を耳にするようになったからです。現在では、個々が生活の合間に蓄えたお金で少しずつ山を購入し、グループ全体で約50haの山林を所有するまでに至っています。その活動は、管理ができなくなった個人の山を担う新しい事例となっています。

■機械化と技術向上を目指して
グループでは「林業の機械化」と「技術の向上」を目指しています。これまでは、架線を使った従来の方法で作業していましたが、現在はハーベスタ、クローラローダー、ザウルスロボ、クローラローダ、トラックなどの機械を導入し、山の状況に合わせた効率の良い伐採・搬出が可能となりました。結果も数字に現れ、初期の搬出量年

(森林環境づくり支援センター
林業普及指導員 黒田幸喜)



広高林研グループの皆さん

WE LOVE forest!
林業研究グループ

広高林研グループ

安芸高田市甲田町高田原

| | |
|-----|---------|
| 会員数 | 12名 |
| 設立 | 平成14年4月 |

■県外の若者が創立のきっかけ
広高林研グループは広島県の安芸高田市を拠点に活動しています。メンバーは、みな高知県出身で、平成2年に知人の紹介で3名の若者が旅行と山仕事のアルバイトを兼ね、広島県の森林組合の事務所の2階に泊り込んだことが、そもそものきっかけです。その後、その若者たちが有限会社高田林産を設立、森林組合や国有林の事業を請け負いながら、地域に根を張っていきました。メンバーは当初、別のグループに参加していましたが、独自の活動を行うため平成14年に「広高林研グループ」を立上げ、現在は活動を活性化させています。



林研の母体となる高田林産では様々な林業機械を導入

■若い労働力が定着するヒント
広高林研グループの母体となっている有限会社高田林産は、現在12名で、うち9名が25歳から34歳と若く平均年齢は37歳。定着率も高く、経験年数は5年から15年の範囲となっています。
グループの中心的な1人である武藤さんは「自分たちは、最初から山が（林業が）好きでこの道に入ったわけではなく、フリーターとしてのアルバイトなど気軽な気持ちで、この仕事を始めたことがきっかけです」と話しています。さらに武藤さんは当時の自分たち

ハーベスタ。メンバー全員が免許取得できるよう互いにフォロー

